

第26回食料・農業・農村政策審議会企画部会地球環境小委員会
林政審議会施策部会地球環境小委員会
水産政策審議会企画部会地球環境小委員会 合同会議

前回の地球環境小委員会合同会議における 委員発言

平成31年3月19日
環境政策室

○ 全般

- ・ 温暖化対策を進める場合、地域消費者とのパートナーシップが必要（横山委員）
- ・ 地域完結型を基本とした生物多様性と温暖化施策の両立が重要（横山委員）
- ・ 改正漁業法は省エネ、CO2削減に貢献（山下委員）
- ・ 温暖化対策が本当に競争力の源泉となるようなダイナミックな目標が立てられたら現場としてはうれしい（井村委員）
- ・ いろいろな他産業とも連動しながら、日本の農業の構造自体、食の構造自体を変えるような大きな流れになって欲しい（井村委員）
- ・ 農村と都市の視点が大事であり、地域循環共生圏という新しい言葉も出てきたが、流域という言葉もあり、農村と都市も入っていてイメージしやすい（増本委員）

○ エネルギー、バイオマス

- ・ 第5次エネルギー基本計画では水素エネルギーを非常に重要視しており、再エネを活用した水素生産という観点から、水素エネルギーというものをイノベーションの核としてもう少し打ち出しても良いと思う（青柳委員）
- ・ 再エネの創出に関し、これまでの取組を評価し、課題を明らかにした上で進めることが必要（小倉委員）
- ・ 作物や森林が切り開かれてバイオ素材が作られることを考慮した上で促進することが必要（小倉委員）

○ 農業

- ・ 農地、都市農業をいかに残していくかが重要（上岡委員）
- ・ 有機農業の拡大といった視点を入れていただきたい（上岡委員）

○ 吸収源

- ・ 藻場等のブルーカーボンを吸収源として考えていただきたい（中田委員）
- ・ 木材チップなどを農地に入れて炭素貯留する視点を入れてほしい（増本委員）

○ 教育

- ・ 食品ロス、食品廃棄をさせないという認知を進めることが大事（小倉委員）
- ・ 食品ロスを含めた食農教育、あるいは環境教育は、長期的な視点として必要（上岡委員）
- ・ 2050年にがんばる若者に対する教育が大事（井村委員）